



何百万という借金をしながら、私は何を学んでいるのか、アベさんに教えてあげます。それは、抑圧者の権力に抗い、それとたたかう知性です！

アベさんは喜ぶべきです、この国には知を身に付け、権力に隷属しない、批判的な思考力を養う、多くの学び者がいるのです！

～9/6 (日)、新宿ホコ天・学者・学生の集会～

9月6日(日)、新宿の歩行者天国で、学者と学生の主催する集会があり、私も参加しました。雨にもかかわらず、1万2000人が参加。冒頭に発言した国際基督教大学四年生の栗栖由喜さんのスピーチは感動的です。https://www.youtube.com/watch?v=Lu0Yw_KAxw0&feature=youtu.be で視聴できます。

文章に起こしましたので、読んでみてください。彼女のスピーチには、人の命への愛おしさが根底に流れています。すがすがしさと静かなパワーを感じます。解説は不要ですね。

<栗栖由喜さんのスピーチ>

こんにちは、国際基督教大学4年の栗栖由喜です。今は膝に力が入らなくて、それが緊張なのか、昨日飲み過ぎてなのかわりませんが、よろしくお願いします。

テレビドラマや映画・演劇など戦争を題材とした作品が普段より目立つ。ニュースでも戦争を特集した番組がよく放送される。日本各地では戦没者を追悼する式典が開催される。そんないつもの夏が、すでに秋へと模様変えする町にかすんで、今年もまた過ぎ去ろうとしている。

戦争の時代に生きた人々の記憶をたどり、その傷跡に触れ、無残に散っていった数知れない命を思い、あのような歴史はもう二度と繰り返さないと、その決意を心に刻もうとする。けれど、気づく。私たちはもうすでに二度目を始めてしまっている。この国で終戦が宣言された後もずっと沖縄は米軍の核のもとで生きることを強いられ、また米軍基地と並んでたたずむ自衛隊の基地が意味すること、それは沖縄の人々の生はアメリカだけでなく日本自身によっても踏みにじられているということです。福島における原発事故の記憶は忘れ去られ、日本最大の活断層の上にある爆弾を私たちは・・・しまいました。原発事故の問題を何ひとつ解決させないまま、東京オリンピックへと走り、オリンピックの準備が進む中で、中心から周辺への新たな差別と態度が始まるでしょう。異なる国籍の人々に対するヘイト的な言動や、在日申請者の強制送還、外国人労働者らに課せられる苛酷な労働、路上でひっそりと死んでいくホームレスの人々に、私たちのうちの誰が彼らのことを心に留めるのでしょうか。

形こそ70年前の大戦のようなものではないかもしれないけれど、未来永劫の平和を求めたはずの私たちは、繰り返さないと誓った歴史を繰り返すかのような社会の中にあります。そしていまアベ政権は、私たちが繰り返さないと心に刻んだあの戦争を真っ正面から出迎えるかのように、安全保障関連法案を急ピッチで成立させようとしています。彼はこの国の最高法規である憲法を無視し、この国そのものである私たちを無視し、私たちの声を無視し、アメリカの甘いささやきによだれを垂らしています。自衛隊は家族への手紙という名の遺書を書かされ、戦争への準備をさせられています。彼らはこの国の国家権力によって死の契約を結ばされているのです。

私はアベさんに言いたい、私たちは戦争をするため、人を殺すために生まれてきたんじゃないんです(そうだ! そうだ!)。私たちは生きるために、それもより良く生きるために生まれてきたんです(そうだ! そうだ!)。この私たちが戦争をしたくない、人を殺したくない、死にたくないと思うことは、何も



戦争法案 廃案ニュース



おかしい事じゃないんです（そうだ！）。自分に向かってきた攻撃から自らを守るため武力や兵力を用いることは、もしかしたらやむを得ない場合だってあるのかもしれませんが、しかし、自らが攻撃されているのにもかかわらず、敵だと言って銃口を向けるなんて、もはや意味不明で（そうだ！）。

国の安全保障における集団的自衛権や個別的自衛権の行使をけんかなんかに例えようもないのは、国の武力の行使によって何の罪もない多くの人々の命が犠牲になる可能性があるからです（そうだ！）。集団的自衛権はもちろん、個別的自衛権ですら、自衛のために起きた沖縄戦のことを思うと、簡単に認められるものではないと、国家による武力行使によって、本当に自衛などできるのか、と私は考えます。私は、専門家でも何でもありませんが、国家の安全保障の問題はとても複雑で、理論が崩壊し、未熟な議論のままで決定できるような、そんな単純なことじゃないと思っています（そうだ！）。なぜなら、そこには人の命がかかっているからです。富と権力への欲に頭が麻痺し、目のくらんでいるアベさんにはわからないかも知れませんが、金で人の命を買うことはできないんです（そうだ！）。この世のすべての富を手に入れても、死んでしまった誰一人の命も、私たちは生き返らせることができないんです（そうだ！）。それに対して、私が責任をとる、ということがどんなに無責任で、残忍なことであるのか、アベさんはしっかりと認識すべきです（そうだ！）。私たちは、人の死に対して無力です。しかし、これがもたらすものは絶望だけではありません。私たちは人の死に対して無力であるからこそ、武力ではなく、対話の道へ進むことができる、武器ではなく、言葉をもってたたかうことができるのです（そうだ！）。これが、これこそが人間の強さです（そうだ！）。

私は、この間初めて靖国神社を訪れました。靖国神社を参拝するアベさんに対して言いたいのは、お国のために尊い命を捧げて死んでいった兵士たち、戦争の犠牲となり死んでいった罪なき人々に対して、本当に頭を下げる気持があるのなら、あの惨禍を繰り返させはしないという決意と覚悟をもって、政治と外交を行ってくださいということです（そうだ！）。

今の私たちにとって一番の脅威はアベさん自身です（そうだ！）。今のアベさんは、今に限らず、いつものアベさんだってそうですけど、私たちにとって暴力そのものであると言えます（そうだ！）。彼によってこの国がどれだけの危機にさらされ、悲鳴をあげているか、彼は気付こうともしていないでしょう。

私は今、大学生で、貸与の奨学金を受けながら大学へ通っています。私は高校の時から奨学金を貸与しながら学校へ通っているのですが、何百万という借金をしながら、私は何を学んでいるのか、アベさんに教えてあげます。それは、抑圧者の権力に抗い、それとたたかう知性です（そうだ！）。アベさんは喜ぶべきです、この国には知を身に付け、権力に隷属しない、批判的な思考力を養う、多くの学び者がいるのです（そうだ！）。この国は教育を受けるのにお金が掛かりすぎますが、この国の教育はまだ死んでない、私たちは権力に対する沈黙を破ります。アベさんにとっては存立危機事態なのかもしれませんが、これはこの国にとってとても良いことだと思います（そうだ！）。

戦後70年と言われる今なお、戦後を生きることのできない人たちがいます。国家の歴史に埋もれた、しかし確かに存在する個々人の記録、私たちがその声と叫びに耳を傾け、その教えを未来へとつむいで行きましょう。私たちは、ただ口をパクパクと開けてエサを待っている魚ではありません。意思ある生きた言葉と思考に基づいた行動によって、確かな歩みを進めていきましょう。平和を希求し、より良く生きる努力をしましょう。

2015年9月6日、私は安全保障関連法案に反対します（歓声と拍手）。

